



「大台ヶ原のシカ食害」観察会

日時： 2020 年 11 月 5 日(木) 集合 7:30 分 大阪城公園前

参加者： 21 名

コロナ感染予防のため、今回はバス 2 台を借り上げ「大台ヶ原のシカの食害状況の観察会」を実施。

前日の天気予報では、この秋一番の冷え込みとの予報に覚悟をしていたが当日はそれほどの寒さでもなく秋晴れの申し分ない天気であった。

時刻通り大阪城公園駅前を出発、南阪奈道から国道 169 号線を経て大台ヶ原ドライブウェイを通り 10 時 30 分少し前に到着

大台ヶ原ドライブウェイでは、真っ青な空の下、陽に照らされた紅葉の鮮やかさと、銀色に輝くススキは目を奪われる程の美しさだった。秋真っ盛りである。

駐車場から東回りの一般コース、4 時間程度の行程

(日出ヶ岳→正木峠→正木ヶ原→尾鷲辻→牛関ヶ原→大蛇峠→シオカラ谷釣り橋)

大蛇峠分岐点からエスケープコースと急降下のシオカラ谷まで降り急登登りとなる健脚コースの 2 つに分かれ大台ヶ原駐車場にて落ち合う。予定時刻より 20 分程度早く到着。

誰一人怪我もなく秋の絶景を楽しんだ一日でした。

今回の観察会は今年の森シリーズのテーマの一つでもあるシカの食害を知るとの目的でした。

初めて目にする正木ヶ原でのミヤコザサの草原と白骨林と化した景色は幻想的であった。

シカ食害が問題になったのは関西では大台ヶ原が最初だろうとのことである。

昭和 34 年(1959)の伊勢湾台風の直撃で、かつての美しいトウヒ林の多くの木が倒れ、原生林の地面を覆っていた苔が笹に変わってしまった。その笹を食べるために集まってきた鹿が、笹だけでなく木の皮もはがして食べてしまい、一面トウヒの立ち枯れた樹木や倒木が広がる荒野になってしまったとのこと。

1964 年の鬱蒼とした森のパネル写真が立てかけてあった。現在の大台ヶ原とは考えられない状況で驚いた。もう元の森には戻らないと言われている。ここに至るまで何とか手を打つことが出来なかったのだろうか？

色々な複雑な要素がからみ現在のシカ問題にかかわってきているのだろうと思った。

木道を作ったり樹木の幹をネットで巻いたりして対策はしているがどうにもならない深刻な状況だと強く感じた。